

## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称	Dopamine ELISA Kit
コンポーネント名	Acylation Reagent
商品コード	ABN社 商品コード:KA1887
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	OTH0107V00 (2015/4/9)

## 2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)

## GHS分類

物理化学的危険性	爆発物 分類対象外 可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む) 分類対象外 エアゾール 分類対象外 支燃性又は酸化性ガス 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 区分3 可燃性固体 分類対象外 自己反応性化学品 分類対象外 自然発火性液体 区分外 自然発火性固体 分類対象外 自己発熱性化学品 分類できない 水反応可燃性化学品 分類対象外 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類対象外 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 区分3 急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分外 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 区分2 発がん性 区分1B 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(肝臓)、区分2(呼吸器) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓)
環境有害性	吸引性呼吸器有害性 分類できない 水生環境有害性(急性) 区分外 水生環境有害性(長期間) 区分外 オゾン層への有害性 分類できない

## GHSラベル要素

絵表示  
FRTC



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
H226 引火性液体及び蒸気  
H318 重篤な眼の損傷  
H331 吸入すると有毒  
H341 遺伝性疾患のおそれの疑い  
H350 発がんのおそれ  
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H370 肝臓の障害  
H371 呼吸器の障害のおそれ  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害

注意書き  
安全対策

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。(P241)  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)  
煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)

応急措置

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)  
指定された個人用保護具を使用すること。(P281)  
取扱い後はよく眼と手を洗うこと。(P264)  
吸入した場合、医師に連絡すること。(P304+P311)  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)  
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)  
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310)  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)

保管

容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。(P403+P235+P233)

廃棄

施錠して保管すること。(P405)  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

他の危険有害性  
重要な徴候及び想定される非常事態の概要

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
化学名又は一般名  
別名

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
N, N-ジメチルホルムアミド	25-50%	C3H7NO	(2)-680		68-12-2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワー、石鹸で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。直ちに医師に連絡すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状  
の最も重要な徴候症状

吸入：咽頭痛、腹痛、下痢、嘔吐。

皮膚：「吸入」参照。吸収される可能性がある。

眼：充血、痛み。

経口摂取：腹痛、黄疸。誤嚥の危険性がある。

データなし

応急措置をする者の保護  
医師に対する特別な注意事項

毒性の症状は、2～3時間あるいは数日経過するまで現れない。アルコール飲料の摂取により、有害作用が増大する。

### 5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。

使ってはならない消火剤

棒状放水、水噴霧。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

極めて燃え易く、熱、火花、炎で容易に発火する。

特有の消火方法

消火後再び発火するおそれがある。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

容器が熱に晒されているときは、移さない。

消火を行う者の保護

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項  
封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

二次災害の防止策

密閉された場所に立入る前に換気する。  
環境中に放出してはならない。  
危険でなければ漏れを止める。  
漏れた液やこぼれた液を、密閉式の容器にできる限り集める。  
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意  
取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

接触回避  
衛生対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
眼、皮膚との接触、飲み込まないこと。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
「10. 安定性及び反応性」を参照。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく眼と手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、屋根とはりを不燃材料で作成し、天井を設けないこと。  
保管場所の床は、危険物や水が浸透しない構造とすると共に、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。  
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。  
施錠して保管すること。  
消防法又は国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
N, N-ジメチルホルムアミド	10ppm	10ppm(30mg/m <sup>3</sup> )(皮)	TWA 10ppm, STEL - (Skin)

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具  
手の保護具  
眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。  
適切な保護手袋を着用すること。  
適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。  
適切な保護衣、保護面を着用すること。  
必要に応じて個人用の自給式呼吸器付化学保護衣を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態	液体
	形状	無色～黄色
	色	特徴的な臭気
臭い		データなし
臭いのしきい(閾)値		6.7
pH		-61℃
融点・凝固点		153℃
沸点、初留点及び沸騰範囲		58℃(密閉式)
引火点		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)		データなし
燃焼性(固体、気体)		2.2～15.2vol%(100℃)
燃焼又は爆発範囲		3.87mmHg(25℃)(換算値:515Pa(25℃))
蒸気圧		2.52(空気 = 1)(計算値)
蒸気密度		0.9445(25℃/4℃)
比重(密度)		水、ほとんどの一般的な有機溶媒と混和する。
溶解度		log Pow = -1.01(測定値)
n-オクタノール／水分配		
係数		
自然発火温度		445℃
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		0.85mm <sup>2</sup> /s(25℃)
動粘性率		データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	酸化剤、硝酸塩、ハロゲン化炭化水素と激しく反応する。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	酸化剤、硝酸塩、ハロゲン化炭化水素と激しく反応する。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。
混触危険物質	酸化剤、硝酸塩、ハロゲン化炭化水素。
危険有害な分解生成物	加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物を含む有毒なフェュームを生じる。
その他	ある種のプラスチックやゴムを侵す。

## 11. 有害性情報

急性毒性	類推値 実測値	
	経口	ラットのLD50 = 3000mg/kg、3920mg/kg、4000mg/kg、4320mg/kg、3200mg/kg、7170mg/kg(EHC 114(1991))より、区分外(国連分類の区分5)とした。
	経皮	ラットのLD50 = 3500mg/kg(環境省リスク評価第1巻(2002))、5000mg/kg、11140mg/kg、11000mg/kg(EHC 114(1991))より、区分外(国連分類の区分5)とした。
	吸入(蒸気)	マウスのLC50 = 9400mg/m <sup>3</sup> /2時間(4時間換算値: 4.7mg/L、この値は飽和蒸気圧の90%より低く蒸気と判断される)(HSDB(2005))から区分3とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		動物を用いた皮膚刺激性試験結果の記述に、刺激性はみられなかった(CERI・NITE有害性評価書 No.8(2005))とあり、区分外とした。ただし、ヒトの事故で皮膚の刺激性が報告されている。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性		ウサギを用いた眼刺激性試験で、75～100%の水溶液ではより強度の刺激性を示し、14日目までに軽度の結膜の発赤、中等度の角膜傷害が、重度の損傷、軽微な表面の変形、角膜下血管新生の領域と共にみられた(EHC 114(1991))との記述がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性	<p>以上のことから、眼に重篤な損傷性を有すると考えられ、区分1とした。</p> <p>呼吸器感作性: データなし</p> <p>皮膚感作性: モルモットを用いたMaximization法による試験の結果、反応がなかった(EHC 114(1991))との記述があるが、陰性のデータが1つしかないため、分類できないとした。</p>
生殖細胞変異原性	<p>経世代変異原性試験で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験がなく、体細胞in vivo変異原性試験で陽性の結果があり、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験がない(CERI・NITE有害性評価書 No.8(2005))ことから、区分2とした。</p>
発がん性	<p>吸入によるがん原性試験の結果、ラットの雌雄に肝臓の肝細胞腺腫と肝細胞がんの発生増加が認められ、マウスの雌雄に肝臓の肝細胞腺腫、肝細胞がんの発生増加が最低用量の200ppmから、さらにマウスの雄に特に悪性度の高い肝芽腫が認められ、ラット、マウスの雌雄とも明らかながん原性が示された(厚生労働省委託がん原性試験(2000))。肝臓腫瘍の発生に種差、性差がなく悪性度も高い腫瘍が発生している。この結果に基づき、N,N-ジメチルホルムアミドによる労働者の健康障害を防止するための指針(厚労省指針(2005))が出されている。以上より、区分1Bとした。</p>
生殖毒性	<p>なお、日本産業衛生学会(1991)は第2群B、IARC 71(1999)がグループ3、ACGIH-TLV(2001)がA4に分類している。</p> <p>親動物に一般毒性影響のみられない濃度で、次世代に奇形(口蓋裂、外脳症、水頭症、蝶形骨欠損、癒合肋骨、尾欠損)がみられた(CERI・NITE有害性評価書 No.8(2005))ことから、区分1Bとした。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>ヒトについては、摂食障害、嘔吐、腹部、腰部、大腿部の痛みがみられ、症状が消えた後でも肝臓で線維化、組織球の集簇(CERI・NITE有害性評価書 No.8(2005))の記述があった。</p> <p>実験動物では、肺胞壁の肥厚(CERI・NITE有害性評価書 No.8(2005))との記述がある。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>以上のことから、肝臓、呼吸器が標的臓器と考えられ、区分1(肝臓)、区分2(呼吸器)とした。</p> <p>ヒトについては、肝機能障害、アルコール不耐性の兆候が見られた(IRIS(1990))、肝障害の増加ASTまたはALTの上昇、限局性肝細胞壊死、滑面小胞体の微小胞の脂肪変性の記述がある。</p> <p>実験動物では、小葉中心性の肝細胞肥大(NTP TOX22(1992))、急性肝細胞傷害を示唆する、SGPT及びSGOT活性の上昇、幼若動物の肝臓に病理組織学的な変化(IRIS(1990))、100ppm以上: ALP活性上昇 200ppm以上: ALT活性上昇、200ppm以上: 肝臓の単細胞壊死(CERI・NITE有害性評価書No.8(2005))との記述がある。</p> <p>以上より、区分1(肝臓)とした。</p>
吸引性呼吸器有害性 有害性その他	データなし
12. 環境影響情報	
水生環境有害性(急性)	<p>魚類(ヒメダカ)の96時間、LC50 = 100mg/L(環境省生態影響試験(1995))から、区分外とした。</p>
水生環境有害性(長期間)	<p>難水溶性でなく(水溶解度 = <math>1.00 \times 10^{&lt;6&gt;}</math>mg/L (PHYSPROP Database(2005)))、急性毒性が低いことから、区分外とした。</p>

生態毒性  
 残留性・分解性  
 生体蓄積性  
 土壤中の移動性  
 オゾン層への有害性  
 環境影響その他

情報なし。  
 データなし  
 データなし  
 データなし  
 データなし

13. 廃棄上の注意  
 残余廃棄物

本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。  
 廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガス、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。  
 データなし

汚染容器及び包装

14. 輸送上の注意  
 国際規制

海上規制情報  
 UN No. 2265  
 Proper Shipping Name N,N-DIMETHYLFORMAMIDE  
 Class 3  
 Sub Risk  
 Packing Group III  
 Marine Pollutant Not Applicable  
 Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code. Not Applicable

航空規制情報  
 UN No. 2265  
 Proper Shipping Name N,N-DIMETHYLFORMAMIDE  
 Class 3  
 Sub Risk  
 Packing Group III

国内規制

陸上規制情報 該当しない。  
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。  
 国連番号 2265  
 品名 N,N-ジメチルホルムアミド  
 国連分類 3  
 副次危険  
 容器等級 III  
 海洋汚染物質 非該当  
 MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質 非該当  
 航空規制情報 航空法の規定に従う。  
 国連番号 2265  
 品名 N,N-ジメチルホルムアミド  
 国連分類 3  
 副次危険  
 等級 III

特別の安全対策  
 緊急時応急措置指針番号

129

15. 適用法令  
 化学物質排出把握管理  
 促進法 (PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)  
 N, N-ジメチルホルムアミド 政令番号:232

	1質量%以上を含有する製品。
労働安全衛生法	<p>名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)</p> <p>N, N-ジメチルホルムアミド 政令番号:299</p> <p>O. 1質量%以上を含有する製剤その他の物(施行令第18条の2第2号、安衛則第34条の2別表第2)</p> <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)</p> <p>N, N-ジメチルホルムアミド 政令番号:299</p> <p>O. 3質量%以上を含有する製剤その他の物(安衛則第30条・別表第2)</p> <p>第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)</p> <p>N, N-ジメチルホルムアミド</p> <p>第1種、第2種有機溶剤を5重量%を超えて含有するもの。</p> <p>健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項・厚労省指針公示)</p> <p>N, N-ジメチルホルムアミドを含有する物。ただし、含有量が重量の1%以下のものを除く。</p> <p>作業環境評価基準(法第65条の2第1項)</p> <p>危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)</p> <p>その他の引火点30°C以上65°C未満のもの。</p>
消防法	<p>第4類引火性液体、第二石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)</p> <p>可燃性液体量が40%以下のものを除く。</p>
化審法	<p>優先評価化学物質(法第2条第5項)</p> <p>N, N-ジメチルホルムアミド</p>
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
労働基準法	<p>疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)</p> <p>ジメチルホルムアミド</p>

## 16. その他の情報 参考文献

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス  
 日本ケミカルデータベース ezCRIC  
 安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS  
 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版

- その他
- ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
  - ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。
  - ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
  - ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。



## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称	Dopamine ELISA Kit
コンポーネント名	Stop Solution
商品コード	ABN社 商品コード:KA1887
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	DEL1412V03 (2019/5/31)

## 2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)

## GHS分類

物理化学的危険性	爆発物 分類対象外 可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む) 分類対象外 エアゾール 分類対象外 支燃性又は酸化性ガス 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 区分外 可燃性固体 分類対象外 自己反応性化学品 分類対象外 自然発火性液体 区分外 自然発火性固体 分類対象外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 分類対象外 酸化性液体 区分外 酸化性固体 分類対象外 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外 急性毒性(吸入:ミスト) 区分2 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1A 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 区分外 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 分類できない 生殖毒性 区分外 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器系) 吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(長期間) 区分1 オゾン層への有害性 分類できない

## GHSラベル要素

絵表示  
RTCV



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
H330 吸入すると生命に危険  
H370 呼吸器系の障害  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系の障害  
H402 水生生物に有害  
H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き  
安全対策

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)

応急措置

呼吸用保護具を着用すること。(P284)  
環境への放出を避けること。(P273)  
取扱い後はよく眼と手を洗うこと。(P264)  
吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。(P304+P310)  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)  
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。(P302+P310)  
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)  
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310)  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)  
漏出物を回収すること。(P391)

保管

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

廃棄

施錠して保管すること。(P405)  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

他の危険有害性  
重要な徴候及び想定される非常事態の概要

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
化学名又は一般名  
別名

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
硫酸	10%未満	H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub>	(1)-430		7664-93-9

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

## 4. 応急措置

吸入した場合

直ちに医師に連絡すること。  
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。  
直ちに医師に連絡すること。  
直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合

汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。  
直ちに医師に連絡すること。  
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。  
吸入：灼熱感、咽頭痛、咳、息苦しさ、息切れ。  
皮膚：発赤、痛み、水疱、重度の皮膚熱傷。  
眼：発赤、痛み、重度の熱傷。

急性症状及び遅発性症状  
の最も重要な徴候症状

経口：口や喉の熱傷、腹痛、灼熱感、ショック、虚脱。  
データなし  
肺水腫の症状は2～3時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

応急措置をする者の保護  
医師に対する特別な注意  
事項

## 5. 火災時の措置

消火剤

この物質自体は、燃焼しない。  
周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。  
棒状注水。

使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

容器内に水を入れてはいけない。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外は近づけない。  
作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項  
 封じ込め及び浄化の方法及び機材  
 二次災害の防止策

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけません。  
 低地から離れ、風上に留まる。  
 環境中に放出してはならない。  
 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。  
 危険でなければ漏れを止める。  
 漏れた液を、密閉式の容器に集め、地域規則に従って保管、処理する。  
 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意  
 取扱い

技術的対策  
 安全取扱注意事項  
 接触回避  
 衛生対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。  
 眼、皮膚との接触、吸入又は飲み込まないこと。  
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
 環境への放出を避けること。  
 「10. 安定性及び反応性」を参照。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく眼と手を洗うこと。

保管

安全な保管条件  
 安全な容器包装材料

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
 酸化剤から離して保管する。  
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。  
 施錠して保管すること。  
 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
硫酸	未設定	【最大許容濃度】 1mg/m3	TWA 0.2mg/m3(T), STEL -

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 気中濃度を許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。  
 高熱工程でガス、ミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸用保護具  
 手の保護具  
 眼の保護具  
 皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。  
 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。  
 適切な保護手袋を着用すること。  
 適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。  
 適切な保護衣、保護面を着用すること。  
 飛沫が飛ぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣(耐酸スーツ等)を着用すること。  
 一切の接触を防止するにはネオプレン製の手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 外観

物理的状態  
形状  
色

油状の吸湿性液体

無色

無臭

データなし

臭い

臭いのしきい(閾)値

pH

0.3(1N)、1.2(0.1N)、2.1(0.01N)

融点・凝固点

10°C(融点)

沸点、初留点及び沸騰範囲

340°C(分解)

引火点

不燃性

蒸発速度(酢酸ブチル = 1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

データなし

燃焼又は爆発範囲

不燃性

蒸気圧

0.13kPa(146°C)、0.0067Pa(25°C)。

蒸気密度

3.4

比重(密度)

1.8356(15°C/4°C)

溶解度

混和する

n-オクタノール/水分配

log Pow = -2.20(推定値)

係数

自然発火温度

不燃性

分解温度

290°C(三酸化硫黄を発生)

粘度(粘性率)

27mPa·s(20°C)

動粘性率

データなし

## 10. 安定性及び反応性

## 反応性

強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応する。

## 化学的安定性

塩基、水、有機物と激しく反応する。

水と急激に接触すると多量の熱を発生し、酸が飛散することがある。

## 危険有害反応可能性

水で薄めて生じた希硫酸は、各種の金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある。

多くの反応により火災又は爆発を生じることがある。強酸であり、塩基と激しく反応し、ほとんどの普通金属に対して腐食性を示して引火性/爆発性気体(水素)を生成する。

## 避けるべき条件

水、有機物と激しく反応して熱を放出する。

加熱すると、刺激性又は有毒なヒュームやガス(硫黄酸化物)を生成する。

## 混触危険物質

可燃性物質、還元性物質、強酸化剤、強塩基、混触危険物質との接触に注意する。

## 危険有害な分解生成物

燃焼の際は、硫黄酸化物などが生成される。

## その他

吸湿性がある。

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

類推値  
実測値  
経口

ラットLD50 = 2140mg/kg(SIDS(2001))に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。なお、ヒトでの経口摂取(摂取量は不明)による死亡例(ATSDR(1998))の報告がある。

経皮  
吸入(ミスト)

データなし

ラットのLC50(4時間ばく露) = 0.375mg/L及び(1時間ばく露) = 347ppm(4時間換算値: 0.347mg/L)(SIDS(2001))に基づき、区分2とした。

## 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

濃硫酸のpHは1以下であることから、GHS分類基準に従い腐食性物質と判断され、区分1Aと分類した。

眼に対する重篤な損傷性  
又は眼刺激性

ヒトの事故例では前眼房の溶解を伴う眼の重篤な損傷が認められた(ATSDR(1998))との記述、ウサギの眼に対して5%液で中等度、10%液では強度の刺激性が認められた(SIDS(2001))との記述及び本物質のpHが2以下であることから、区分1とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性: 皮膚感作性に関する試験データはないが、硫酸は何十年と工業的に利用されているが、皮膚刺激作用による皮膚障害がよく知られている一方、皮膚感作性の症例報告は皆無である。体内には硫酸イオンが大量に存在する(血清中の硫酸イオンは~33mmol/L、細胞内にはその50倍)が、アレルギー反応は起こらない。金属の硫酸塩では、金属によるアレルギー性陽性となることはあっても、硫酸イオンでは陰性となることは、硫酸亜鉛での陰性の結果から推定される。

以上の結果から、硫酸はヒトに対してアレルギー性を示さないとの結論が得られる(SIDS(1998))との記述から、区分外とした。

生殖細胞変異原性

In vivoでは生殖細胞、体細胞を用いたいずれの試験データもなく、in vitro変異原性試験では単一指標(染色体異常試験)の試験系でのみ陽性の結果がある(ATSDR(1998))が、他の指標では陰性であることから、分類できないとした。

発がん性

硫酸を含む無機強酸のミストへの職業的ばく露については、グループ1(IARC(1992))、A2(ACGIH(2004))、K(NTP(2005))に分類されていることから、IARCの評価及び最近のNTPの評価を尊重し、区分1に分類されるが、硫酸そのものについては、カテゴリ4(DFGOT vol.15(2001))に分類している他、いずれの機関においても発がん性の分類をしていないことから、分類できないとした。

生殖毒性

ウサギ及びマウスの胎児器官形成期に吸入ばく露した試験で、母獣に毒性が認められない用量では、両種共に胎児毒性及び催奇形性は認められず(SIDS(2001))、また、慢性毒性試験及び発がん性試験においても雌雄の生殖器官への影響は認められず、刺激性/腐食性による直接作用が主たる毒性であることから、生殖毒性を示す懸念はないと判断されている(SIDS(2001))ことから、区分外とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ヒトの低濃度の吸入ばく露では咳、息切れなどの気道刺激症状(DFGOT(2001))が認められている。高濃度ばく露では咳、息切れ、血痰排出などの急性影響のほか、肺の機能低下及び繊維化、気腫などの永続的な影響が認められた(ATSDR(1998))との記述がある。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

また、モルモットでの8時間吸入ばく露で肺の出血及び機能障害が認められた(ATSDR(1998))との記述から、区分1(呼吸器系)とした。

ラットの28日間吸入ばく露試験では、区分1のガイドライン値範囲で喉頭粘膜に細胞増殖が認められている(SIDS(2001))。

モルモットの14~139日間反復吸入ばく露試験では、区分1のガイドライン値範囲内の濃度で鼻中隔浮腫、肺気腫、無気肺、細気管支の充血、浮腫、出血、血栓などの気道及び肺の障害の記述がある。

吸引性呼吸器有害性 有害性その他	さらに、カニクイザルでの78週間吸入ばく露試験では、肺の細気管支に細胞の過形成、壁の肥厚などの組織学的変化が、区分1のガイダンス値の範囲の用量(0.048mg/L、23.5時間/Day)で認められた(ATSDR (1998))ことから、区分1(呼吸器系)とした。 データなし																
12. 環境影響情報 水生環境有害性(急性)	魚類(ブルーギル)96時間LC50(pH3.25~3.5) = 16~28mg/L(OECD SIDS(2001))であることから、区分3とした。																
水生環境有害性(長期間)	慢性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、魚類(カダヤシ)の45日間NOEC(成長)(pH6.0) = 0.025mg/L(OECD SIDS(2001))であることから、区分1となる。 カダヤシは卵胎生のため、本来分類に結果を利用できないが、対象物質の成長への影響が大きく、他の魚種で同等以上の毒性が予測されることから使用した。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、無機化合物につき環境中動態が不明であるが、甲殻類(オオミジンコ)の24時間LC50 = 29mg/L(OECD SIDS(2001))であることから、区分3となる。 以上の結果から、区分1とした。																
生態毒性 残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性 環境影響その他	情報なし。 データなし データなし データなし データなし																
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。																
汚染容器及び包装	強酸性であるため、アルカリで中和した後処理すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。																
14. 輸送上の注意 国際規制	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="523 1700 699 1731">海上規制情報</td> <td data-bbox="791 1700 1031 1731">IMOの規定に従う。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1736 608 1767">UN No.</td> <td data-bbox="791 1736 852 1767">1830</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1771 767 1803">Proper Shipping Name</td> <td data-bbox="791 1771 1018 1803">SULPHURIC ACID</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1807 592 1839">Class</td> <td data-bbox="791 1807 804 1839">8</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1843 635 1874">Sub Risk</td> <td data-bbox="791 1843 804 1874"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1879 703 1910">Packing Group</td> <td data-bbox="791 1879 804 1910">II</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1915 724 1946">Marine Pollutant</td> <td data-bbox="791 1915 970 1946">Not Applicable</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1951 735 2085">Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.</td> <td data-bbox="791 1951 970 1982">Not Applicable</td> </tr> </table>	海上規制情報	IMOの規定に従う。	UN No.	1830	Proper Shipping Name	SULPHURIC ACID	Class	8	Sub Risk		Packing Group	II	Marine Pollutant	Not Applicable	Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.	Not Applicable
海上規制情報	IMOの規定に従う。																
UN No.	1830																
Proper Shipping Name	SULPHURIC ACID																
Class	8																
Sub Risk																	
Packing Group	II																
Marine Pollutant	Not Applicable																
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.	Not Applicable																

	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	1830
	Proper Shipping Name	SULPHURIC ACID
	Class	8
	Sub Risk	
	Packing Group	II
国内規制	陸上規制情報	該当しない。
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号	1830
	品名	硫酸
	国連分類	8
	副次危険	
	容器等級	II
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附	非該当
	属書II 及びIBC コー	
	ドによるばら積み輸	
	送される液体物質	
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
	国連番号	1830
	品名	硫酸
	国連分類	8
	副次危険	
	等級	II
特別の安全対策		
緊急時応急措置指針番号		137
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		劇物(法第2条別表第2) 硫酸
		劇物(指定令第2条) 塩化水素と硫酸とを含有する製剤。 塩化水素と硫酸とを合わせて10%以下を含有するものを除く。 硫酸を含有する製剤。 硫酸10%以下を含有するものを除く。
労働安全衛生法		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9) 硫酸 政令番号:613 1重量%以上を含有する製剤その他の物(施行令第18条の2第2号、安衛則第34条の2別表第2)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 硫酸 政令番号:613 1重量%以上を含有する製剤その他の物(安衛則第30条・別表第2)。運搬・貯蔵中に固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物であって、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除く。



	<p>特定化学物質第3類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第6号)          硫酸を含有する製剤その他の物。          含有量が重量の1%以下のものを除く。</p> <p>腐食性液体(労働安全衛生規則第326条)</p>
麻薬及び向精神薬取締法	麻薬向精神薬原料(法別表第4(9)、指定令第4条) 硫酸(10%を超える含有物)
水質汚濁防止法	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) 硫酸
船舶安全法	腐食性物質
航空法	腐食性物質
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1) 硫酸
16. その他の情報	
参考文献	<p>経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス          日本ケミカルデータベース ezCRIC          安全衛生情報センター GHS対応モデルSDS          国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版          化学物質総合情報提供システム(CHRIP)</p>
その他	<p>◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。</p> <p>◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。</p> <p>◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。</p> <p>◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。</p>

## 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称	Dopamine ELISA Kit
コンポーネント名	Assay Buffer
商品コード	ABN社 商品コード:KA1887
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	DEL1417V00 (2017/9/25)

## 2. 危険有害性の要約(以下、SDSは溶液としての評価に基づき作成)

## GHS分類

物理化学的危険性	爆発物 分類対象外 可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む) 分類対象外 エアゾール 分類対象外 支燃性又は酸化性ガス 区分外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類対象外 自己反応性化学品 分類対象外 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類対象外 自己発熱性化学品 分類対象外 水反応可燃性化学品 分類対象外 酸化性液体 区分外 酸化性固体 分類対象外 有機過酸化物 分類対象外
健康有害性	金属腐食性物質 分類できない 急性毒性(経口) 区分3 急性毒性(経皮) 区分外 急性毒性(吸入:気体) 区分3 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉じん) 分類対象外 急性毒性(吸入:ミスト) 区分2 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1 呼吸器感作性 区分1 皮膚感作性 区分外 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分外 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器系 歯)
環境有害性	吸引性呼吸器有害性 分類対象外 水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(長期間) 区分外 オゾン層への有害性 分類できない

## GHSラベル要素

絵表示  
RTCV



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
H301+H331 飲み込んだり、吸入すると有毒  
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
H330 吸入すると生命に危険  
H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ  
H370 呼吸器系の障害  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、歯の障害  
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き  
安全対策

ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
(P260)  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
(P271)  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)  
呼吸用保護具を着用すること。(P284)  
取扱い後はよく眼と手を洗うこと。(P264)  
環境への放出を避けること。(P273)

応急措置

吸入した場合、直ちに医師に連絡すること。  
(P304+P310)  
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。(P308+P311)  
呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。(P342+P311)  
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)  
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。(P302+P310)  
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)  
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310)  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。(P301+P330+P331)  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)  
漏出物は回収すること。(P391)  
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

保管

## 廃棄

施錠して保管すること。(P405)  
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

他の危険有害性  
重要な徴候及び想定される非常事態の概要

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
化学名又は一般名  
別名

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
塩酸<塩化水素酸><塩化水素>	10%未満	HCl	(1)-215		7647-01-0

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

## 4. 応急措置

吸入した場合

直ちに医師に連絡すること。  
呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。  
呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。  
直ちに医師に連絡すること。  
直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワー、石鹼で洗うこと。  
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

眼に入った場合

直ちに医師に連絡すること。  
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。そ

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。  
口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状  
の最も重要な徴候症状

無理に吐かせないこと。  
吸入：腐食性。灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛。症状は遅れて現れることがある。  
皮膚：凍傷腐食性。重度の皮膚熱傷、痛み。  
眼：腐食性。痛み、かすみ眼、重度の熱傷。  
肺水腫の症状は2～3時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

応急措置をする者の保護  
医師に対する特別な注意事項

データなし  
医師又は医師が認定した者による適切な吸入療法の迅速な施行を検討する。

## 5. 火災時の措置

消火剤

二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、散水、噴霧水。

使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性

この物質自体は不燃性。  
データなし  
火災によって刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 細かな噴霧水を用いて気体を除去する。  
 データなし

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
 保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
 低地から離れ、風上に留まる。  
 密閉された場所は換気する。  
 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。  
 環境中に放出してはならない。  
 危険でなければ漏れを止める。  
 徐々に石灰乳などの攪拌溶液に加え中和させた後、多量の水で希釈して処理する。  
 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境に対する注意事項  
 封じ込め及び浄化の方法  
 及び機材

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意  
 取扱い

技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

火気注意。  
 眼、皮膚との接触、飲み込まないこと。  
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。  
 環境への放出を避けること。  
 「10. 安定性及び反応性」を参照。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく眼と手を洗うこと。

接触回避  
 衛生対策

保管

安全な保管条件

酸化剤から離して保管する。  
 容器を密閉して換気の良い涼所で保管すること。  
 施錠して保管すること。

安全な容器包装材料 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
塩酸<塩化水素酸>< 塩化水素>	未設定	5ppm(7.5mg/m3) 【最大許容濃度】 5ppm(7.5mg/m3)	TWA -, STEL C 2ppm

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 完全密閉系及び完全密閉装置でのみ取扱うこと。  
 気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

		高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	呼吸用保護具	呼吸器保護具を着用すること。 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。
	手の保護具	保温用の保護手袋を着用すること。 飛沫が飛ぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣(耐酸スーツ等)を着用する。
	眼の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 一切の接触を防止するには、ネオプレン製の手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
外観	物理的状態 形状 色	無色発煙性液体又は無色気体 無色透明もしくは淡黄色
臭い		刺激臭
臭いのしきい(閾)値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		-17.14°C(10.81%)、-62.25°C(20.69%)、-46.2°C(31.24%)、-25.4°C(39.17%)
沸点、初留点及び沸騰範囲		108.58°C(共沸、20.22%)
引火点		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)		データなし
燃焼性(固体、気体)		非該当
燃焼又は爆発範囲		データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度		データなし
比重(密度)		1.05(10.17%w/w、15°C、4°C)、1.10(20%w/w、15°C、4°C)、1.15(29.57%w/w、15°C、4°C)、1.204(39.11%w/w、15°C、4°C)
溶解度		水に混和
n-オクタノール／水分配		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		データなし
動粘性率		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		強酸であり、塩基と激しく反応し腐食性を示す。 水又は水蒸気と反応して腐食性の有毒ガスを発生する。
化学的安定性		法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		加熱すると有毒な塩化水素ガスを発する。 強酸であり、塩基と激しく反応し腐食性を示す。 酸化剤と激しく反応し、有毒なガス(塩素)を生じる。 多くの金属を侵し、可燃性の気体(水素)を生じる。
避けるべき条件		加熱、混触危険物質との接触。
混触危険物質		可燃性物質、還元性物質、強酸化剤、強塩基、アミン。アルカリ金属他各種金属(アルミニウム等)、過マンガン酸塩、炭化カルシウム、フッ素。
危険有害な分解生成物 その他		塩素ガス、塩化水素ガス、水素ガス。

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

類推値	
実測値	
経口	ラットのLD50 = 238~277mg/kg、700mg/kg(SIDS(2009))より、危険性の高い方の値を採用し、区分3とした。
経皮	ウサギLD50 = > 5010mg/kg(SIDS(2009))に基づき、区分外とした。
吸入(気体)	ラットのLC50 = 4.2、4.7、283mg/L/60min(4時間換算値:順に、1411、1579、95083ppm)(SIDS(2009))より、危険性の高い方の値を採用し、区分3とした。
吸入(ミスト)	ラットのLC50 = 1.68mg/L/1h(4時間換算値:0.42mg/L)(SIDS(2009))に基づき、区分2とした。 エアゾールのデータであることから、試験条件はミストとみなした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、1~4時間ばく露により濃度次第で腐食性が認められている。マウス又はラットに5~30分ばく露により刺激性及び皮膚の変色を伴う潰瘍が起きている(SIDS(2009))。また、ヒトでも軽度~重度の刺激性、潰瘍や薬傷を起こした(SIDS(2009))との報告もある。 以上より、本物質は腐食性を有すると考えられるので区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	皮膚腐食性で区分1に分類されている。眼の損傷・刺激性に関してはすべて本物質の水溶液である塩酸ばく露による。ウサギを含め複数の動物試験の結果、眼に対する重度の刺激又は損傷性、腐食性を示すと(SIDS(2002))の記述がある。 また、ヒトにおいても永続的な損傷や失明のおそれ(SIDS(2002))が記載されていることから、区分1とした。なお、EU分類ではC、R34に分類されている。
呼吸器感作性又は皮膚 感作性	呼吸器感作性:日本職業・環境アレルギー学会特設委員会にて作成された職業性アレルギーの感作性化学物質の一つとしてリストアップされていることから、区分1とした。 なお、ヒトで塩化水素を含む清掃剤にばく露後気管支痙攣を起こし、1年後になお僅かの刺激により喘息様症状を呈した(ACGIH(2003))との報告がある。 皮膚感作性:モルモットのMaximization Test及びマウスのEar Swelling Testでの陰性結果に加え、15人のヒトに感作誘導後10~14日に適用した試験において誰も陽性反応を示さなかった(SIDS(2009))との報告があることから、区分外とした。
生殖細胞変異原性 発がん性	データなし IARCによるGroup 3(1992年)、ACGIHによるA4(2003年)の分類に基づき区分外とした。 なお、ラット又はマウスの発がん性試験で発がん性を示唆する証拠はなく(SIDS(2009))、ヒトの疫学調査でも多くはがん発生と塩化水素ばく露との関係に否定的である(IARC 54(1992)、PATTY 5th(2001))。
生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回 ばく露)	データなし ヒトで吸入ばく露により呼吸困難、喉頭炎、気管支炎、気管支収縮、肺炎などの症状を呈し、上気道の浮腫、炎症、壊死、肺水腫(DFGOTvol.6(1994)、PATTY 5th(2001)、IARC 54(1992)、ACGIH(2003))が報告されている。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>また、動物試験では粘膜壊死を伴う気管支炎、肺の浮腫、出血、血栓など、肺や気管支に形態的傷害を伴う毒性影響が区分1の範囲で認められている(ACGIH(2003)、SIDS(2009))。</p> <p>以上のヒト及び動物の情報に基づき、区分1(呼吸器系)とした。</p> <p>ヒトで反復ばく露を受け侵食による歯の損傷を訴える報告が複数あり(SIDS(2002)、EHC 21(1982)、DFGOTvol.6(1994)、PATTY 5th(2001))、さらに慢性気管支炎の発生頻度増加(DFGOTvol.6(1994))も報告されている。</p> <p>以上のことから、区分1(歯、呼吸器系)とした。</p> <p>データなし</p>				
吸引性呼吸器有害性 有害性その他	データなし				
12. 環境影響情報 水生環境有害性(急性)	<p>甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50 = 0.492mg/L(SIDS(2005))であることから、区分1とした。</p> <p>水溶液が強酸となることが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分外とした。</p>				
水生環境有害性(長期間)	<p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>データなし</p>				
生態毒性 残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性 環境影響その他	<p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>情報なし。</p> <p>データなし</p>				
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物	<p>本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。</p> <p>廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガス、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。</p> <p>情報なし。</p>				
汚染容器及び包装	情報なし。				
14. 輸送上の注意 国際規制	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="523 1352 772 1738">海上規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.</td> <td data-bbox="791 1352 1082 1615">IMOの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II Not Applicable Not Applicable</td> </tr> <tr> <td data-bbox="523 1742 772 1935">航空規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group</td> <td data-bbox="791 1742 1145 1935">ICAO/IATAの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II</td> </tr> </table>	海上規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.	IMOの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II Not Applicable Not Applicable	航空規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group	ICAO/IATAの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II
海上規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II,and the IBC code.	IMOの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II Not Applicable Not Applicable				
航空規制情報 UN No. Proper Shipping Name Class Sub Risk Packing Group	ICAO/IATAの規定に従う。 1789 HYDROCHLORIC ACID 8 II				
国内規制	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="523 1973 772 2063">陸上規制情報 海上規制情報 国連番号</td> <td data-bbox="791 1973 1118 2063">該当しない。 船舶安全法の規定に従う。 1789</td> </tr> </table>	陸上規制情報 海上規制情報 国連番号	該当しない。 船舶安全法の規定に従う。 1789		
陸上規制情報 海上規制情報 国連番号	該当しない。 船舶安全法の規定に従う。 1789				



	品名	塩酸
	国連分類	8
	副次危険	
	容器等級	II
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附	非該当
	属書II 及びIBC コー	
	ドによるばら積み輸	
	送される液体物質	
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
	国連番号	1789
	品名	塩酸
	国連分類	8
	副次危険	
	等級	II
特別の安全対策		
緊急時応急措置指針番号		157
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		劇物(法第2条別表第2) 塩化水素
		劇物(指定令第2条) 塩化水素を含有する製剤。ただし、塩化水素 10%以下を含有するものを除く。 塩化水素と硫酸とを含有する製剤。ただし、塩化 水素と硫酸とを合わせて10%以下を含有するもの を除く。
労働安全衛生法		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57 条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第 9) 塩化水素 政令番号:98 0.1重量%以上を含有する製剤その他の物(施 行令第18条の2第2号、安衛則第34条の2別表 第2)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57 条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 塩化水素 政令番号:98 0.2重量%以上を含有する製剤その他の物(安 衛則第30条・別表第2)。運搬・貯蔵中に固体以外 の状態にならず、かつ、粉状にならない物であっ て、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆 発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮 膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除 く。
		特定化学物質第3類物質(特定化学物質障害予防 塩化水素を含有する製剤その他の物。ただし、含 有量が重量の1%以下のものを除く。
		腐食性液体(労働安全衛生規則第326条)
水質汚濁防止法		指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3) 塩化水素
船舶安全法		腐食性物質
航空法		腐食性物質

労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35  
条別表第1の2第4号1)  
塩酸(塩化水素を含む)

16. その他の情報  
参考文献

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス  
日本ケミカルデータベース ezCRIC  
安全衛生情報センター GHS対応モデルSDS  
国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版  
神奈川県環境科学センター 化学物質安全情報提供システム(kis-net)  
Maryadele J. O'Neil(Ed), The Merck Index 14th Edition

その他

- ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。
- ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
- ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。